

使用教科書：（東京書籍 All Aboard English Communication I ）

副教材：（NHK出版 All Aboard English Communication I 学習書 ）

教科 外国語

の指導目標：

（1）「外国語」の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。

（2）コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について外国語で情報や考えなどの要点、詳細、相手の意図などを的確理解したり、これらを適切に表現したり伝達し合ったりすることができる。

（3）「外国語」の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

科目 英語コミュニケーション I の指導目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体性・学びに向かう力、人間性等】
英語学習における五つの領域に必要な基礎的な単語、文法等の知識、技能を身に付け、さらに高度な知識、技能を身に付け活用している。	自ら工夫しながら、英語の五つの領域に必要な音声、語彙、表現、文法などの理解を深め、それらを活用することができる。	英語学習に必要な五つの領域を活用しながら、学国語の背景にある文化に対する理解を深め、自ら学びの目標を明確にして主体的に学習に取り組もうととしている。

履修の留意点	単位数	レポート提出規定通数	スクーリング出席規定回数	視聴メディア
必修科目のため、入学初年度に履修することが望ましい。	3	年 9 通	年 12 回以上	※

前期	スクーリング丸数字・指導単元	指導方法	指導（学習）内容	レポート	提出期限	スクーリング				備考
	①Pre-lesson 1, 2, Lesson 1 中学英語復習 ②Lesson 2 Australia's Cute Quokkas	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活用等	・be動詞、一般動詞の用法（現在・過去時制、現在進行形） ・be動詞、一般動詞の疑問文、否定文 ・会話文を通してコミュニケーションを深める ・オーストラリアの地勢、自然を踏まえ、クオッカについて考察する	第1回	5月21日	5月2日	5月9日	5月16日		
	③Lesson 3 本文の読解 三陸鉄道で働く運転士の日常と日々の思いについて考察する ④文法 助動詞のcan, will の意味、用法を理解する	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活用等	・三陸鉄道はどこを走っているのか ・東北における三陸鉄道の役割とは？ ・運転士として大切にしていることについて考える ・助動詞のcan, willの意味、用法・否定形、have to ~ の用法	第2回	6月11日	5月23日	5月30日	6月6日		
	⑤Lesson 4 本文の読解 南米ボリビアにある絶景の湖について 乾季と雨季に見られるそれぞれの景色について理解する ⑥文法 to 不定詞の3つの用法を理解する	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活用等	・南半球の気候を理解して、ボリビアのウユニ塩原の特徴を考察する ・ボリビアとはどんな国か調べてみる ・to 不定詞の3つの用法の働きを理解し実際に英文を作ってみる	第3回	6月25日	6月3日	6月20日			
	⑦Lesson 5 本文の読解 愛媛県長浜高校の水族館部の活動について ⑧文法 動名詞 ~ing	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活用等	・水族館部の活動を理解し部員たちの奮闘と将来の進路を考察し、自分自身の進路についても考えてみる。 ・動名詞が、動詞の意味を持ちながら、名詞の役割をすることを理解する	第4回	7月9日	6月27日	7月4日			
	⑨Lesson 6 本文の読解 歌川国芳の浮世絵作品の特徴について ⑩文法 受け身	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活用等	・歌川国芳の浮世絵に親しみ、その特徴を理解する ・浮世絵が与えた日本のアニメ文化への影響 ・受け身 (be動詞+過去分詞) の働きについて理解し、受け身を使って英文を組み立てる	第5回	7月23日	7月1日	7月18日			
	定期考査	前期試験 9月の土曜	試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表							
	⑪Lesson 7 本文の読解 アンネフランクが生き残った時代について ⑫文法 比較表現	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活用等	・第二次世界大戦中のユダヤ人への迫害の事実を理解し、現在の世界と平和について考察する ・3つの比較表現を学習し、実際に使えるようにする	第6回	10月22日	10月3日	10月10日	10月17日		
	⑬Lesson 8 本文の前半の読解 ロボットカフェと文法（現在完了形） ⑭本文後半読解 ロボットカフェと文法（現在完了形）	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活用等	・吉藤健太朗さんが開発した分身ロボットと障害を持つ人が社会参加することについて考える ・現在完了形の3つの用法を理解し実際に使い分けられるようになる	第7回	11月12日	11月4日	11月31日			

後期	⑮Lesson 8 本文全体のまとめと p. 102 ⑯Lesson 8 文法(現在完了形)のまとめと p. 111	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用等	・分身ロボットと障害を持つ人が社会参加することの意義について考える。学習した表現、リスニング、Summaryを学習する ・現在完了形の3つの用法を理解し実際に使い分けられるようになる	第7回	11月12日	11月7日						
	⑰Lesson 9 本文 プラスチック汚染 part 1, 2の読解 ⑱Lesson 9 本文 プラスチック汚染 part 3 の読解と文法(分詞)	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活用等	・現代社会で欠かせないプラスチックとその汚染問題に取り組む若者たちについて、身近な問題として自分たちで解決を考える ・分詞の用法を理解し実際に使って表現できるようになる	第8回	12月3日	11月14日	11月21日					
	⑲Lesson 9 本文 プラスチック汚染 全体のまとめと p. 116 ⑳Lesson 9 文法 プラスチック汚染 文法(分詞)のまとめと p. 140	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活用等	・便利なプラスチックが持つ地球汚染の問題を自分たちの身近な問題として考える ・分詞の用法を理解し実際に使って表現できるようになる	第8回	12月3日	11月28日						
	㉑Lesson 10 本文 海を渡った豚 Part 1, 2 の読解 ㉒Lesson 10 本文 Part 3 の読解と文法(関係代名詞)	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活用等	・第二次世界大戦中、戦後に起きた沖縄の飢餓とハワイの日系人とのかかわりについて考察する。 ・関係代名詞 who, which の用法を理解し実際に試してみる	第9回	12月4日	12月5日	12月12日					
	㉓Lesson 10 本文 本文 海を渡った豚 全体のまとめと p. 126 ㉔Lesson 10 文法のまとめ(関係代名詞)と p. 140	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活用等	・第二次世界大戦中、戦後に起きた沖縄の飢餓とハワイの日系人とのかかわりについて考察する。 ・学習した表現、リスニング、Summaryを学習する ・関係代名詞の応用	第9回	12月4日	12月19日						
定期考査	後期試験 1月～2月の土曜日 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表											

※視聴メディア(NHK高校講座)については、Web学習コースのみ

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準	
レポート評価基準	
A	設問のほとんどすべてを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して高度に発展的に思考・判断し表現できる力が認められる。
B	設問のほとんどを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して概ね思考・判断し、表現できている。またはAのレベルに達しているが提出期限を過ぎて提出されたもの。
C	Bのレベルに達しているが、提出期限を過ぎて提出されたもの。再提出されたレポートは合格のレベルに達していても評価が下がる。
D	再提出されたレポートは、合格レベルに達していても評価が下がる。
再提出	正答が設問の合格ライン(81%以上)に到達しておらず、再度取り組みなおす必要があるもの。また、正答率が81%以上であっても取り組み方によっては再提出となることがある。
無効	著しく学習の成果が認められない場合、無効となる。提出期限までに初回の取り組みとして提出する必要がある。

観点別評価

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
各単元の英文を正しく理解するために必要な単語の意味や発音を繰り返し学習しようとしている。文法の基本的なルールを理解するために設問に取り組むことができる。	各単元の文法項目を理解して、それらを使って様々に表現することができる。各単元で扱われている内容について、文化・歴史・社会的背景について理解を深めてうえで、自ら物事を考察し、表現することができる。	レポート課題やスクーリングにおいて、目的意識をもって主体的に取り組む、それぞれ学習した内容の背景にあるものをより深く理解しようとしている。

評定の方法など(前期評価・後期評価)
レポート評価点、定期考査点、スクーリング出席を換算し評定は1～5の5段階で行う。 評定2以上で単位修得が認定される。 学年末の成績が著しく悪い場合は、単位修得に向けての機会を設けることがある。

使用教科書： (All Aboard! English Communication II 東京書籍)

使用教材： (学習書 NHK出版)

教科 外国語

の指導目標：

- (1) 英語学習における五つの領域に必要な単語、文法等の知識、技能を身に付け、さらに高度な知識、技能を身に付け活用することができる。
- (2) 自ら工夫しながら、英語の五つの領域に必要な音声、語彙、表現、文法などの理解を深め、それらを活用することができる。
- (3) 英語学習に必要な五つの領域を活用しながら、学国語の背景にある文化に対する理解を深め、自ら学びの目標を明確にして主体的に学習に取り組むことできる。

科目 英語コミュニケーションⅡ-1 の指導目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体性・学びに向かう力、人間性等】
自らの課題を発見し、「外国語」におけるコミュニケーションに必要な知識、技能を身につけ、継続的な学習を通じて、高度な知識、技能が身につけている。	自らの課題を意識し、「外国語」の音声、語彙、表現、文法などの理解を深めている。意欲的な学習を通じて、自ら物事を考えたり、表現したりすることができる。	目的意識をもって主体的に取り組むことで、「外国語」におけるコミュニケーションだけでなく、背景にある文化を理解し、豊かな人間性を身に付けようとしている。

履修の留意点	単位数	レポート提出規定通数	スクーリング出席規定回数	視聴メディア
必修科目である英語コミュニケーションⅠの履修が完了していること。上位科目のため、英語の基礎基本が身につけており、意欲的であること。	2	年 6 通	年 8 回以上	※

	スクーリング丸数字・指導単元	指導方法	指導（学習）内容	レポート	提出期限	スクーリング				備考	
前期	①Lesson 1 A Colorful Island ②関係代名詞 (what)	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等	・関係代名詞whatを用いた文の理解、応用練習 ・イタリアのプラーノ島への旅行を報告するSNSを通して、現地の特色について学習する。 ・海外の観光地についての文章を読み、気分の考えをまとめる。	第1回	5月28日	5月2日	5月9日	5月16日			
	③Lesson 2 With the Beatles ④比較表現	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等	・比較表現more, the mostを用いた文の理解、応用練習 ・世代を超えて人気のある音楽バンドについての対話文を学習する。	第2回	6月25日	5月30日	6月6日	6月13日	6月20日		
	⑤Lesson 3 Wild Men ⑥itの用法	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等	・itの用法 (it~to..., it~that...) を用いた文の理解、応用練習 ・ワイルドマンについて学ぶ、身近な行事や祭りを紹介する文を読み、相手の意見を知り、自分の意見をまとめる。	第3回	7月3日	6月27日	7月4日	7月18日			
	定期考査	前期試験 9月の土曜 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表									
後期	⑦Lesson 4 Little Hero ⑧間接疑問文	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等	・間接疑問文の形・意味の理解、応用練習 ・ハチドリやハチドリを主人公にした物語の内容を学ぶ、好きな物語について調べたことをまとめる。	第4回	10月29日	10月3日	10月10日	10月17日	10月24日		
	⑨Lesson 5 Special Makeup in Kabuki ⑩to不定詞を含む表現	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等	・to不定詞を含む表現を用いた文の形・意味の理解、応用練習 ・歌舞伎と隈取に関する内容を学ぶ、日本の伝統文化について紹介する文を読み、相手の意見を知り、自分の意見をまとめる。	第5回	11月6日	10月31日	11月7日	11月14日	11月21日		
	⑪Lesson 6 Seeds for Future Generations ⑫動詞の目的語になるif節	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等	・動詞の目的語になるif節を用いた文の形・意味の理解、応用練習 ・京野菜についての内容を読み、京野菜についてのスピーチ文を学習する。	第6回	12月4日	11月28日	12月5日	12月12日	12月19日		
	定期考査	後期試験 1月～2月の土曜日 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表									

※視聴メディア(NHK高校講座)については、Web学習コースのみ

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準	
レポート評価基準	
A	設問のほとんどすべてを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して高度に発展的に思考・判断し表現できる力が認められる。
B	設問のほとんどを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して概ね思考・判断し、表現できている。またはAのレベルに達しているが提出期限を過ぎて提出されたもの。
C	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着している。またはBのレベルに達しているが、提出期限を過ぎて提出されたもの。
D	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着しつつある。また、再提出されたレポートは、合格レベルに達していても評価が下がる。
再提出	正答が設問の合格ラインに到達しておらず、再度取り組みなおす必要があるもの。また、正答率が81%以上であっても取り組み方によっては再提出となることがある。
無効	著しく学習の成果が認められない場合、無効となる。提出期限までに初回の取り組みとして提出する必要がある。

観点別評価

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
①② 関係代名詞Whatの用法を理解している ③④ 比較表現の用法を理解している ⑤⑥ itの用法を理解している ⑦⑧ 間接疑問文の用法を理解している ⑨⑩ to不定詞の用法を理解している ⑪⑫ 動詞の目的格になるif節の用法を理解している	各単元の文法項目を理解して、それらを使って様々に表現することができる。 各単元で扱われている内容について、文化・歴史・社会的背景について理解を深めてうえで、自ら物事を考察し、表現することができる。	スクーリングにおいて、目的意識をもって主体的に取り組むことができる。コミュニケーションだけでなく、スクーリングを通じて単元の背景にあるものを理解しようとしている。

評定の方法など(前期評価・後期評価)
定期考査点とレポート評価点・スクーリングの出席や提出物点などを換算し評定は1～5の5段階で行う。 評定2以上で単位修得が認定される。 学年末の成績が著しく悪い場合は、単位修得に向けての機会を設けることがある。

使用教科書： (All Aboard! English Communication II 東京書籍)

使用教材： (学習書 NHK出版)

教科 外国語

の指導目標：

- (1) 英語学習における五つの領域に必要な単語、文法等の知識、技能を身に付け、さらに高度な知識、技能を身に付け活用することができる。
- (2) 自ら工夫しながら、英語の五つの領域に必要な音声、語彙、表現、文法などの理解を深め、それらを活用することができる。
- (3) 英語学習に必要な五つの領域を活用しながら、学国語の背景にある文化に対する理解を深め、自ら学びの目標を明確にして主体的に学習に取り組むことできる。

科目 英語コミュニケーションⅡ-2 の指導目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体性・学びに向かう力、人間性等】
自らの課題を発見し、「英語」におけるコミュニケーションに必要な知識、技能を身につけ、継続的な学習を通じて、高度な知識、技能が身につけている。	自らの課題を意識し、「英語」の音声、語彙、表現、文法などの理解を深めている。意欲的な学習を通じて、自ら物事を考えたり、表現したりすることができる。	目的意識をもって主体的に取り組むことで、「英語」におけるコミュニケーションだけでなく、背景にある文化を理解し、豊かな人間性を身に付けようとしている。

履修の留意点	単位数	レポート提出規定通数	スクーリング出席規定回数	視聴メディア
必修科目である英語コミュニケーションⅡ-1の履修が完了していることが望ましい。最上位科目のため、英語の発展的な知識・技能が身につけており、意欲的であること。	2	年 6 通	年 8 回以上	※

	スクーリング丸数字・指導単元	指導方法	指導（学習）内容	レポート	提出期限			スクーリング			備考
					提出	提出	提出	出席	出席	出席	
前期	①Lesson 7 Over the Wall ②関係副詞	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等	・関係副詞where, whenを用いた文の理解、応用練習 ・世界中で壁画を描く活動について学び、外国の人々と交流する方法について理解を深め、自分の考えをまとめる。	第1回	5月28日	5月9日	5月23日				
	③Lesson 8 Inspiration from Nature ④知覚動詞	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等	・知覚動詞を用いた文の理解、応用練習 ・自然界のデザインをヒントに開発された製品について理解する。 ・ヨーロッパ、アメリカ以外の海外の様子について、理解を深める。	第2回	6月25日	6月6日	6月20日				
	⑤Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate (p.122~123) ⑥使役動詞	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等	・使役動詞を用いた文の理解、応用練習 ・チョコレートをめぐる社会問題とその解決策について学び、児童労働の問題について理解し、自分の意見をまとめる。	第3回	7月23日	7月4日	7月11日				
	定期考査	前期試験 9月の土曜 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表									
後期	⑦Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate (p.124~125) ⑧使役動詞	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等	・使役動詞を用いた文の理解、応用練習 ・チョコレートをめぐる社会問題と解決策について学んだことを基に、児童労働の問題についてさらに深く考察し、さまざまな意見をまとめる。	第4回	10月29日	10月10日	10月17日				
	⑨Lesson 10 Fighting Angel (p.134~135) ⑩分詞構文	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等	・分詞構文の形や意味の理解、応用練習 ・ナイチンゲールの生涯について学び、人を助ける職業について考察を広げ、理解を深める。	第5回	11月26日	11月11日	11月22日				
	⑪Lesson 10 Fighting Angel) p.136~137) ⑫分詞構文	・教科書・学習書 ・プリント ・一人1台端末の活用 等	・分詞構文の形や意味の理解、応用練習 ・医療や看護の発展に貢献したナイチンゲールの生き方について考え、理解を深める。	第6回	12月4日	12月18日	12月22日				
	定期考査	後期試験 1月~2月の土曜日 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表									

※視聴メディア(NHK高校講座)については、Web学習コースのみ

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準	
レポート評価基準	
A	設問のほとんどすべてを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して高度に発展的に思考・判断し表現できる力が認められる。
B	設問のほとんどを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して概ね思考・判断し、表現できている。またはAのレベルに達しているが提出期限を過ぎて提出されたもの。
C	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着している。またはBのレベルに達しているが、提出期限を過ぎて提出されたもの。
D	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着しつつある。また、再提出されたレポートは、合格レベルに達していても評価が下がる。
再提出	正答が設問の合格ラインに到達しておらず、再度取り組みなおす必要があるもの。また、正答率が81%以上であっても取り組み方によっては再提出となることがある。
無効	著しく学習の成果が認められない場合、無効となる。提出期限までに初回の取り組みとして提出する必要がある。

観点別評価

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
①② 関係副詞where, whenの用法を理解している ③④ 知覚動詞の用法を理解している ⑤⑥ 使役動詞の用法を理解している① ⑦⑧ 使役動詞の用法を理解している② ⑨⑩ 分詞構文の用法を理解している① ⑪⑫ 分詞構文の用法を理解している②	各単元の文法項目を理解して、それらを使って様々な表現することができる。 各単元で扱われている内容について、文化・歴史・社会的背景について理解を深めてうえで、自ら物事を考察し、表現することができる。	スクーリングにおいて、目的意識をもって主体的に取り組むことができる。コミュニケーションだけでなく、スクーリングを通じて単元の背景にあるものを理解しようとしている。

評定の方法など(前期評価・後期評価)
定期考査点とレポート評価点・スクーリングの出席や提出物点などを換算し評定は1～5の5段階で行う。 評定2以上で単位修得が認定される。 学年末の成績が著しく悪い場合は、単位修得に向けての機会を設けることがある。

使用教科書：（東京書籍 NEW FAVORITE English Logic and Expression I ）

副教材：（NHK出版 English Logic and Expression I 学習書 ）

教科 外国語 の指導目標：

- (1) 「外国語」の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、日常的な話題や社会的な話題について外国語で情報や考えなどの要点、詳細、相手の意図などを的確理解したり、これらを適切に表現したり伝達し合ったりすることができる。
- (3) 「外国語」の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

科目 論理・表現 I の指導目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体性・学びに向かう力、人間性等】
発信に係る三つの領域の言語活動を重点的に 行い、情報や考えを伝えあい、論理的な文章 を書く技能を身につけ、実際のコミュニケー ションにおいて活用できる。	自ら工夫しながら、日常的な話題や社会的 な話題について、情報や自分の考え、気持 ちを論理的に伝え、目的や場面、状況に応 じた表現を使いこなすことができる。	三つの領域（やり取り、発表、書くこと） の言語活動をふまえて、他者とのコミュニ ケーションをより深めることに興味を持 ち、主体的に学習に取り組もうとしてい る。

履修の留意点	単位数	レポート提出規定通数	スクーリング出席規定回数	視聴メディア
選択科目であるので、履修年度に決まりはないが、扱わ れる文法が幅広いので、英語コミュニケーション I を履 修した後に履修することが望ましい。	2	年 6 通	年 8 回以上	※

	スクーリング丸数字・指導単元	指導方法	指導（学習）内容	レポ ート	提出 期限	スクーリング				備考	
前期	①Lesson 1 初めての食事 ②Lesson 2 道に迷う Unit 2 Lesson 1	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活 用 等	・食事の場面において、必要な表現、語彙を学 び、褒める・勧める・断るときの適切な表現を 運用し、考えや気持ちを伝える ・ Could you ~? を用いた依頼の表現や命令文 の形・意味、用法を理解し、提案、依頼、道順 案内などをする。	第 1 回	5 月 2 8 日	5 月 2 日	5 月 1 6 日				
	③Lesson 3 人物紹介 ④Lesson 4 体調が悪い Unit 2 Lesson 2	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活 用 等	・身近な人を紹介する、聞き手や読み手の注意 を引く表現を学習する。 ・現在完了と過去形、to不定詞と動名詞の用法 を理解する。人物紹介に関する表現、性格や趣 味に関する語彙力をつける。 ・体調を尋ねたり、具体的な症状を伝えたり、 指示、アドバイスを提示する。	第 2 回	6 月 2 5 日	5 月 3 0 日	6 月 1 3 日				
	⑤Lesson 5 買い物 ⑥Lesson 6 行ってみたい場所 Unit 2 Lesson 3	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活 用 等	・買い物の場面で必要なさまざまな表現を学 び、自分が必要な情報を得る。 ・海外の各国に目を向け、行ってみたい場所、 その理由を述べる表現を学び、自己表現する。	第 3 回	7 月 2 3 日	6 月 2 7 日	7 月 1 1 日				
定期考査	前期試験 9月の土曜		試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表								
後期	⑦Lesson 7 イベントに誘われる ⑧Lesson 7 イベントに誘われる	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活 用 等	・週末や休日の過ごし方を尋ねたり答えたりす る表現を学ぶ。相手によって変える誘い方のバ リエーションを使い分ける。 ・断り方やその理由をつける表現を学ぶ。誘い の内容を理解し、相手に配慮した形で理由を述 べて、誘いを断る表現を学ぶ。	第 4 回	1 0 月 2 9 日	1 0 月 1 0 日					
	⑨Lesson 8 スクールカウンセラーに 相談 ⑩Lesson 8 スクールカウンセラーに 相談 Unit 2 Lesson 4	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活 用 等	・状況を説明したり、御礼や感謝の気持ちを伝 える。相手の状況を理解し、手助けを申し出た り、助言・提案をする。 ・ルールや手順を順序だてて説明したり、聞き 手や読み手の知識に合わせた説明をする。	第 4 回	1 0 月 2 9 日	1 0 月 2 4 日					
	⑪Lesson 9 お気に入りを紹介 ⑫Lesson 9 お気に入りを紹介 Unit 2 Lesson 5	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活 用 等	・話し相手の知識に配慮し、適切な表現で、順 序だてて要約し、紹介する。 ・映画や本のあらすじを要約し、登場人物を紹 介する。感想や批評を述べる	第 5 回	1 1 月 2 6 日	1 1 月 7 日					

⑬Lesson 10 待ち合わせに遅刻 ⑭Lesson 10 待ち合わせに遅刻 Unit 2 Lesson 6	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活用等	・待ち合わせの場面に遅刻した場合の謝罪表現、励ます表現のフォーマルな形やカジュアルな形の違いを学ぶ。 ・物事のメリット、デメリットについて考え、述べ、自分の考えを主張をする。	第5回	1月26日	1月21日								
⑮Lesson 11 家庭でのディスカッション ⑯Lesson 11 家庭でのディスカッション Unit 2 Lesson 7	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活用等	・行政の予算に関する話題で、共感したり、残念な気持ちを述べる。 ・共感を述べたり、残念な気持ちを述べる。解決案を提案する。	第6回	1月24日	1月28日								
⑰Lesson 12 英字新聞に投稿 ⑱Lesson 12 英字新聞に投稿 Unit 2 Lesson 8	・教科書・学習書 ・プリント ・振り返りシート ・一人1台端末の活用等	・学校生活に関する提案文を参考に、自分の要望や提案、その理由を考え表現する。 ・人の意見を引用しながら、解決したい点を順序だてて説明し、読み手を説得する表現を学習する。	第6回	1月24日	1月19日								
定期考査	後期試験 1月～2月の土曜日 試験範囲、時間割等の詳細は「一橋通信」にて発表												

※視聴メディア(NHK高校講座)については、Web学習コースのみ

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定に当たっての基準	
レポート評価基準	
A	設問のほとんどを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して高度に発展的に思考・判断し表現できる力が認められる。
B	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着している。また学習した知識等を応用して概ね思考・判断し、表現できている。またはAのレベルに達しているが提出期限を過ぎて提出されたもの。
C	設問の多くを正答できる程度に知識・技能が定着しつつある。Bのレベルに達しているが、提出期限を過ぎて提出されたもの。また再提出されたレポートは合格のレベルに達していても評価が下がる。
D	再提出されたレポートは、合格レベルに達していても評価が下がる。
再提出	正答が設問の合格ラインに到達しておらず、再度取り組みなおす必要があるもの。また、正答率が合格ライン以上であっても取り組み方によっては再提出となることがある。
無効	著しく学習の成果が認められない場合、無効となる。提出期限までに初回の取り組みとして提出する必要がある。

観点別評価

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
基本的な文法の知識を使って、自分の気持ちを相手に伝えることができ、コミュニケーションに必要な会話表現を理解している。理由を述べる等、場面や状況に応じて、自分の考えや気持ちを基本的な表現を用いて相手に伝えることができる。	場面に応じて、相手の状況、求めているものを理解し、日常的话题や社会的な話題について、自分の気持ちや情報を適切に表現するとともに、情報や考えなどの概要、詳細、意図を伝えあい、理解しあうコミュニケーションを目指して、自己表現をすることができる。	周囲とのコミュニケーションや自己表現に必要なさまざまな表現を学び、それを用いてやりとりをしたり、自分の考えや状況を説明したり、自ら課題に取り組んで表現しようとしている。

評価の方法など(前期評価・後期評価)
レポート評価点・定期考査点・スクーリング出席を換算し、評価は1～5の5段階で行う。評価2以上で単位修得。 学年末の成績が著しく悪い場合は、単位修得に向けての機会を設けることがある。